

研究計画書

ゼミ名	平井ゼミⅡ	チーム名	チーム平井
タイトル	繁華街の衰退と娯楽の関わりについて		
テーマ群	(f) 歴史・思想		
メンバー	吉村寿豊・宮元敦嗣		
研究計画内容	<p>皆さん、現在の新開地地域いざばどのようなイメージを持っていますか？よく「土地柄が悪い」「廃れた町」等と言われており、三宮地域と比べてもあまり華々しくはなく、どこかマイナスのイメージが定着していますが、実は大正時代初期から戦後 1960 年代までは、神戸市の繁華街として「東の浅草、西の新開地」と並び称されえるほど栄華を極めていました。</p> <p>今、日本の地方都市の繁華街では現在の新開地地域のように、「シャッター商店街」や巨大郊外店舗による市中心部の過疎化など、都市の根幹を脅かす様々な問題が発生しています。</p> <p>我々は、これら都市の繁華街の衰退原因を「娯楽」という観点から分析・考察を行います。そして今回の研究の対象地域として、神戸市三宮地域と神戸市新開地地域の 2 地域を比較しました。</p> <p>今回の発表の形式としましては、最初に新開地・三宮の地域の歴史及び両地域における「娯楽」の関わりの変換点を考察し、「娯楽」が地域に与える影響について考察いたします。そして、新開地地域が今後、神戸経済において、どのような役割を持つべきか、平井ゼミⅡからの提案を行います。</p> <p>私達が考えるに、新開地地域の今後の発展は新開地地域内の発展だけではなく、平成不況に悩む神戸経済の起爆剤になると考えています。</p> <p>そして今回の研究を通して、都市中心部の過疎化に悩む地方都市の経済的再生や、人口の大都市一極集中を避け、日本経済の再生につながれば良いのではないかと考えております。</p>		